中外日誌

曹洞

海岸で浄石を採集 見まもり観音堂に

全国の有志僧侶や市民らが東日本大震災の被災地、宮城県石巻市に「見まもり観音堂」を建立する計画が進んでいる。津波にさらわれながらも奇跡的に無傷だった聖観音像を慰霊と復興のシンボルとして祀る観音堂を建立する計画だが、併せて東日本の沿岸部を慰霊しながら犠牲者と同じ数の約2万個の石を浄石として集める。7日は雪が残る女川湾で浄石を集めた＝写真。

見まもり観音堂建立の会代表の増田友厚・蓍松院住職（長野県佐久市）と檀信徒ら約40人は計画の第一歩として6、7日に石巻市などで慰霊法要を行った。一行は6日午前4時に佐久市を出発し午前11時までに石巻市の洞仙寺に到着した。

増田住職は「石さんは、（犠牲者の）悲痛な叫び声、最期のメッセージを聞いていたに違いない。だから石さんに語り続けてほしい」と話す。観音堂は2015年までに洞仙寺境内に建設する予定で、観音像の周りに般若心経などを写経した浄石を納める。「石さんたちが観音様（の慈悲）に包まれるようなイメージ」だという。

蓍松院檀家の柳沢勝也さん(71)は「長野は被災地からは遠いが、震災を忘れずにいるという思いを伝えたい。これからも被災地を訪れて元気づけたい」と語った。

活動は全国に広がり、約6700人の賛同が集まっている。だが、増田住職は「2万人の犠牲者の供養の場として建設される観音堂の応援者は、2万人以上でありたいと願っている」とさらなる協力者を募っている。問い合わせは見まもり観音堂建立の会事務局＝電話0267（82）6183、または0267（88）7182＝へ。

臨黄

黄檗宗

鉄哉制作と確認 梅林寺獣禅老師像

福岡県久留米市の妙心寺派梅林寺が所蔵する同派元管長の三生軒獣禅老師（1841～1917）の頂相彫像＝写真＝が、幕末から大正にかけて活躍した彫刻家・画家の加納鉄哉（1845～1925）の作と確認された。これまで鉄哉の頂相彫像は、黄檗宗総本山萬福寺が所蔵する売茶翁像のみと思われていた。確認した岐阜市の鉄哉研究者、村瀬光春・真聖寺住職(74)は「まさか他の人物像を彫っているとは思わなかった」と驚きつつも〝発見〟を喜んでいる。

三生軒老師と鉄哉は共に岐阜出身。村瀬住職が研究を進める中で、文教家・奥田抱生が鉄哉の七回忌の時にまとめた文書に鉄哉からの手紙が収録され、三生軒老師の像を楽しんで造った、とする記述が見つかった。この手紙によると、鉄哉は美濃国の崇福寺で、また老師は惠利寺でそれぞれ小僧時代を過ごし、共に絵画を好んだ。鉄哉の絵の具が不足した時に、老師が銅銭10文を持って5里余りの道を歩き、顔料を購入したとあり、2人の親交の様子がうかがえる。

三生軒老師の門弟がまとめた『三生軒録』にも、晩年に老師が鉄哉と出会い、自像の彫刻を依頼したと記されているが、ほとんど顧みられなかった。村瀬住職は梅林寺を訪れ、同老師像にある鉄哉の銘も確認した。

梅林寺では毎月2回、三生軒老師像の前でお勤めしているが、像を動かして銘を確認したことがなく、村瀬住職と同じく今回の確認を「驚いている」という。

真宗

本願寺派

各種委員決まる

第306回定期宗会で今年度末に任期満了を迎える常務委員会と企画諮問会議の委員及び宗会議員から選出される本願寺評議会評議員が、次の通り承認・報告された（順不同、敬称略）。

【常務委員会】《有識者》樫畑直尚(56)＝和歌山教区和歌山組眞光寺門徒、㈱南北代表取締役、新▽安永雄彦(59)＝福岡教区福岡組光圓寺衆徒、島本パートナーズ代表取締役社長、再▽横山禎徳(71)＝安芸教区広陵西組浄西寺門徒、東京大特任教授、再《宗会議員》小笠原義宣＝八五倶楽部、新▽原田光生＝樹心会、新▽林利二＝門徒議員会、新▽成川和行＝誓真会、再▽中戸康雄＝大心会、再▽武田昭英＝真生会、再

【企画諮問会議】幸田昌三＝門徒議員会、新▽後藤寿邦＝八五倶楽部、新▽髙橋篤法＝大心会、新▽細山隆朋＝門徒議員会、新▽松原功人＝真生会、再▽光岡理学＝樹心会、再（有識者委員は今後の常務委員会での承認を経て発表）

【本願寺評議会】阿部慶一＝樹心会、再

▼会期中の6日、永年在職議員表彰があり、在職30年の豊原大成、同20年の林利二、同10年の山階照雄、池田行信、阿部慶一、松永大徳、小笠原義宣、成川和行、武野公昭、細山隆朋、藤本毅、布野信之、西村敏夫、松尾和昭、塩月光夫の15議員が表彰を受けた。

総長経験者でもある豊原議員が代表してあいさつ。宗会の役割について「私なりに考えると、大きな事業の設計図を書くこと」と述べ、その枠組みの中にある実務担当者が働きやすい環境を整える重要性を指摘した。

▼門徒議員会の1期生議員でつくる「一期会」が会期中の2日と6日に研修会を実施した。宗会の会期中に1、2回研修会を開催することにしており、昨年の第304回定宗以来、通算で5回となった。2日は小笠原義宣議員と元毎日新聞記者の田原由紀雄氏から2012年度の宗門の機構再編の概要などについて話を聞いた。

大谷派

長久寺前議長出版 議員20年振り返る

前宗議会議長の長久寺徳瑞・日豊教区長久寺前住職(78)が、宗議会議員5期20年の在任中に記した「宗議会報告」などをまとめ、『宗議会議員二十年の歩み』を刊行した。もっとも編集したのは在洛の有志2人で、長久寺氏は「頼まれて書類を送っただけ。挨だらけの書類を、本当によくまとめてくれた」と感謝している。

本書は同氏の議員としての歩みを振り返るにとどまらず、この20年の宗議会をたどる上でも貴重な資料。「宗議会報告」は15編を収録し、本願寺維持財団理事長の宗派離脱、蓮如上人御遠忌のアニメ映画問題、興法議員団からの離団者の件などに触れており、当時を知る一つの証言としても読める。

長久寺氏は20年間の議員生活を振り返り、「われながら、姿勢は一貫していたと思う」と話す。あらためて今、後輩の議員に掛ける言葉を尋ねると「この宗門は同朋会運動をするための宗門。それさえ、しっかりしていれば良い。だがその深まりが無いのは、『私』を収録しているが、そこには同朋会運動への期待と共に、運動の現状に対するもどかしさも伝わってくる。

「一時は体調を崩して、階段の上り下りが少々不自由になったが、宗門のお役に立つことができるならば、いつでもどこでも飛んで行って話したい」と語るなど、熱い思いは健在だ。

▼4月16日から18日まで開かれる第17回非戦・平和沖縄研修会に、宗議会の同朋社会推進委員会も参加する。那覇市内のホテルを主会場に各地を訪問し、普天間基地の移設問題などを学ぶ。同委員会は1日早く沖縄入りし、宗門僧侶の知花昌一氏らと交流する。

抜きにしているから。自己が問われている」と指摘。その思いは本書の随所にちりばめられている。自らが所属した興法議員団についても6編を

宮殿楼閣御翠簾
京すだれ調進所
創業寛保元年　みす武
有職翠簾師　大久保武右衛門
京都市中京区衣棚通二条下ル
〒604-0025　TEL (075)231-3822

お守り・授与品・記念品・仏具
各宗大本山御用達―創業安政二年―
株式会社 秋江
京都市上京区堀川通今出川上ル 836
TEL (075) 432－2255（代表）

新古佛教書　各宗御経等　販売
〒604－8081
京都市中京区寺町通三条北
書林 其中堂
振替〇一〇二〇－九－五三八
☎〇七五（二三一）二九七一
佛教古本　流通活用　両利交易

創業1880年
社寺●数寄屋建築●設計施工
ISO 14001 認証取得
UESO
株式会社 上宗建設
京都市右京区花園木辻南町7-40 ☎075-463-8151(代)

Copyright© 2014Chugainippoh